

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表: 2021年 3月 1日

事業所名 大阪発達総合療育センター ふたば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	2	コロナ感染予防対策で利用人数により部屋を分けて支援しています。	感染対策等で小人数でスペースを分けるには部屋数が十分ではないが、間隔をあけたり、ポジショニングを工夫する等の配慮をしています。
	2	職員の配置数は適切である	15		今年度は人員配置を増員しました。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	2		更に工夫を要し改善を図ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	1	保育を行う部屋、食事をする部屋が同じの為、待ち時間が発生しますが、スタッフ、保護者の協力により環境を整えています。	教材スペース等を工夫し改善を図ります。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	3		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	14	1		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	2	改善項目、内容を記載した書面をホームページに掲載しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	7		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15		様々な職種や経験年数に合わせた研修があり、充実しています。院内研修への参加や外部研修の情報を積極的に入手し職員へ推奨しています。	今年度も5月、11月に実施しました。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	1	KOMIチャート(電子カルテ)を利用し、C.C.等へも活用しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	5	KOMIチャート、レーダーチャート等を利用し、活用しています。	下半期よりCOPMを追加しました。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	1		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	14	1	多職種で行っています。	次年度も新しいグループを構成し、更にチームで取り組みます。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	14		多職種で行っています。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	13	1	コロナ感染予防対策で個別、小人数保育を実施した。また、集団保育の中でも子に応じた支援を工夫しています。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15		毎朝、多職種で打ち合わせを行い共通理解しています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15		毎日、多職種での振り返りを行い、各部署で伝達、共有することで様々な気づきがあり、次の支援に役立っています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15			
関係機関や保護者	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	15			
	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	1	必要時にオンラインで参加しています。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	2	ニーズに応じて提供しています。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	14	1	保護者の情報を基に行っています。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	15		主治医や医療機関との情報を共有しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
この連携関係機関や保護者との連携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	2	保護者のニーズに応じて、保育所等訪問支援で行っています。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	1	保護者のニーズに応じて、保育所等訪問支援で行っています。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	8		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	5	9		例年は地域保育所と交流をしていますが、今年度はコロナ感染予防対策により実施を見合わせました。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	11		コロナ感染予防対策の為参加が難しいですが、一部センター内で参加しています。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15		給食時やゆりの持てる時間を利用して行っています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	12	3	例年、療育講座を行い保護者に対する家族支援を実施しています。	今年度はコロナ感染予防対策もあり、回数を減らし、オンラインを利用して行いました。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	14			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	15			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14		多職種で共有し、各専門分野からの助言等を行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	5	保護者会を開催していませんが、日常において保護者同士のつながりを意識して支援を行っています。	例年通り計画していましたが、コロナ感染予防対策で実施を控えました。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	14	1	電話での相談対応を実施しています。全職員が母(保護者)の言葉に対して傾聴しています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15		「ふたばだより」の発行やlineを活用した連絡、情報提供を行っています。また、感染予防による登園自粛や長期欠席の利用児に向けて、家庭で取り組める保育動画等を配信しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	15			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	15		保育の前後等に話す機会を持てるように心掛けています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	8		例年通り計画していましたが、今年度はコロナ感染予防対策により実施を見合わせました。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	15		感染予防については書面配布やline連絡で随時、情報を伝達しています。	各マニュアルを策定していますが、保護者への周知をさらに深め、訓練を計画、実施します。
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	15			契約時の利用日(曜日)、時間が異なるため、全員が延べ参加できるよう計画を見直します。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	15		モニタリング、事前書類、診察時に確認しています。また、看護師を中心に多職種チームで共有しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15		主治医の指示のもと当センターの医師の判断で実施しています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	14	1	インシデントを電子カルテで共有するとともにミーティング時にも伝達しています。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	1	センターの全体研修として位置付けて実施しています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	14		個別支援計画作成時等に保護者へ説明、確認を行っています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。